

No	性別		年齢	療育手帳		等級	IQ	年金		学歴	資格		資格名	住居	就労等	職種	服薬	
	男	女		有	無			有	無		有	無					有	無
27	1		34	1		B2		1		大学卒		1		自宅	本雇 (48H)	紙箱	1	
28		1	36	1		2	94	1		専門学校		1		アパート	パート (30H)			1
29	1		35	1		2		1		普通高校		1		自宅	通所授産			
30	1		36	1		B	不明		1	普通高校	1		運転免許	自宅	本雇 (42H)	部品組み立て		1
31	1		36		1		99	1		定時制高校		1		グループ	小規模作業所			1
32	1		39	1			不明	1		中学校普通		1		グループ	本雇 (40H)	住宅関連		1
33		1	41	1		B1	不明	1		中学校情緒学級		1		自宅	在宅 (経験無し)			1

現在の行動、生活、就労について困っていること

No	性別		年齢	現在困っていること	生活上の問題	就労に関する問題
	男	女				
1	1		19	中学時代の友達にこだわりがあり、一方的に訪問したり、メール・手紙の関わりを続けている	グループホームになるような物件が見つからない	大雨時の送迎は親頼み
2	1		19			就労先があまりに少ない。仕事の内容について本人の持っている力を発揮する職場がない。親と学校・訓練校の考えが違ふ。
3	1		19	大学の授業を受けられなかったり、提出期限を忘れていたりする。	友達がいないので尋ねることもできない パソコンが唯一の友達でオタク 金銭感覚が無い 何も欲しいものがない	アルバイト探したが5件不採用。
4	1		19	外でおもしろくないことがあると、弟の物をとったり、乱暴したりする。	片づけが苦手	技術専門学校に入学することとしているが、本人は気が変わったと言っている
5	1		20	作業所の休みは親が全面的に支えなければならぬ	家族6人同居では本人が安定して暮らすのが難しい	作業所では本人がプライドをも持っていないとされるという作業内容ではない
6	1		20	いきなり怒り出して大騒ぎする 友人がいなくて独りで行動する	大学は休みが多いので不規則な生活をしている	卒業後どうしたらよいかわからない
7	1		20	IQが低いのに総合的に高機能と言われ 障害を拒否しているので通っている通所作業所に生き甲斐が無い。	作り話が多く人が嫌がる話を楽しそうに言う。 されやすく、トラブルを起こす	母と共に週に1度働いたがダウン。ジョブコーチがいたらと痛切に思った。

No	性別		年齢	現在困っていること	生活上の問題	就労に関する問題
	男	女				
8	1		21	時々フラッシュバックがあり、高校にもどってやり直したいと言う		一度アルバイトをしたが無理だった。今後一般で無理なら手帳が必要になる。
				病院と学校のせいで自身を無くしたと言		
				時々イライラしてしまう		
				徐々に毎日何をしたらよいかわからなくなっている		
9	1		20	グループホームでは話し相手が職員で友達関係がより薄いことが心配		長時間の労働は無理と思う
10	1		21			
11	1		23			
12	1		24			仕事に限られていて長く続かない
13	1		24	障害をもっていることを他人に理解されない	今は学生だが、社会人になれるか不安	このような障害を理解してくれる会社があるのか
14	1		26	なかなか場に定着できないことが不安定さを増している	発達障害として育ててこなかったたので、身辺自立に問題を抱えている	本人は大学卒後の就職を語るが、就労が考えられる状況ではない
					収集した紙の山の整理に取り組んでいる 生活のリズムがつかない	
15	1		26		心因性だと思われる下痢が続くことがある	自分のやりたい仕事に障害があるためつけない

No.	性別		年齢	現在困っていること	生活上の問題	就労に関する問題
	男	女				
					夜寝付きが悪く、朝起きずらい 職場で孤立し友達ができなくて話相手ができ ない	仕事のことが気になるがイライラしてス トレスをよくためている 同僚に言われた言葉にこだわりのストレス がたまる
16	1		27	年金の判定が他市町村より厳しい	送迎の一部を親がやっているとできなくな ると困る	交通の便の悪いところに済んでいるので 会社まで時間がかかる
17	1		28	過去のいじめの経験からフラッシュバック クがあり、本人はたいへんそう。 薬の副作用で吐き気がある。	ひげ剃りが上手くできない。 部屋の片づけ、物の整理ができない。 場所、道順が覚えにくい。	福祉団体でのアルバイトでもパニックを 起こすことがあった。 アルバイトの拘束時間が長い。
18	1		28	いつも同じことを質問する等あるが、特 に困ったことではない。 仕事内容が本人の希望と違うので辞めた いと言う。		職場で自閉症の理解がなかった。 知的障害向けの職種しかない。職域の拡 大を望む。 ハローワークの担当者も高機能自閉症を 理解してもらいたい
19	1		28	いじめられたことをフラッシュバックす ると興奮が止まらない。 突然知らない人から強く言われると、恐 怖でどうしたらいいかわからない。 困った時、本人がいつでも相談できる場 がほしい。	食事、片づけ、危険などに弱さを持つて いる	

No	性別		年齢	現在困っていること	生活上の問題	就労に関する問題
	男	女				
20	1		27	言葉の使い方にこだわっているため、初対面の人とのコミュニケーションに支障をきたす 質問されることが多く、その返答に困る	通所更生施設になかなか通ってくれない 昼夜逆転生活に困っている	言葉に対するこだわりで就労もできない。
21	1		27	会社を解雇になったショックから立ち直っていない。 作業所は刺激が強すぎて、自分のいる場所が見つけられずトラブルを起こしてしまふ。	自分で働いて衣食住の生活をするとという経験ができていない。 嫌な事から逃げて精神面がとてども弱い。 母親がいないと生活が成り立たない状態。	8年間勤めたがストレスから、暴力をふるってしまい、解雇。
22	1		28	何度も悪い事件が報道されると本人が動揺するので赤裸々な報道はやめてほしい。	行く場所も人も合わないと思われたいか、転校前の学校生活を取り戻したいとか、また、大学に行くという。 障害者年金をほしがる。	本人なりに覚えられないことを書くとうとして叱られたことが働く気を無くさせたと思う。
23	1		31	挫折した高校時代へのこだわりが強い	新聞や雑誌をためこみ捨てない こだわりが強くなっているように思う	就労への意欲はあるが、本人の望む就労へのイメージと現実のギャップが大きい
24	1		30	本人は安定就労を望んでいるが難しい。 金銭的に自立していない。	アパルト暮らしのため年金では生活できない。	面接の時点で採用されない。
25	1		31			

No	性別		年齢	現在困っていること	生活上の問題	就労に関する問題
	男	女				
26	1		33	療育手帳を3度申請してもだめだった	<p>お金の管理ができない</p> <p>自分の体調がよくわからない</p> <p>まわりに合わせて行動できない。</p> <p>会話の内容が限られているので家族以外とのやりとりができない</p> <p>時々自分の意にそぐわないと大声を出す</p> <p>お金の管理が難しい</p>	<p>仕事が忙しくなり、上司に叱られるとパニック寸前になるらしい。長く勤めてほしい</p>
27	1		34	親無き後の生活の保障		<p>会社側の理解で11年間働かせてもらっている</p>
28		1	36	職場の休みのときの余暇に困っていたが、デイに通うようになり一寸安心できた		
29	1		35			<p>一般就労を考えたが理解ある人がいないと難しい</p>
30	1		36	趣味が無いのでお金があればすぐ飲食店に行き、深酒をすると2～3日仕事を休む(二日酔いのため)	<p>お金をあまり持たせないようにしているが、本人の収入も若干あるので困っている</p> <p>風呂に入らない(週1回サウナのみ)</p>	<p>会社が理解してくれている</p>
31	1		36	こだわりが強く、変えるのに時間がかか	<p>服装に関心が無く常に乱れがち</p> <p>整理整頓に無関心で物を無くしやすい</p>	<p>就労したが人間関係がうまくいかず、トラブルを起こした</p> <p>就職に意欲をもっているが面接で不採用</p>

No	性別		年齢	現在困っていること	生活上の問題	就労に関する問題
	男	女				
32	1		39			職場は理解あり、注意や指導をしてくれるがその注意に対して非常に強く受け止め不安定になってしまう
33		1	41	一人で外出しないタイプ	今後多少とも手を貸してくれる人がいれば一人での外出など行いたい	集団的な場での就職は無理

将来についての希望

No	性別		年齢	将来について	その他	望む福祉施策
	男	女				
1	1		19	グループホームで過ごし、週末は自宅に帰り、余暇活動も続けながら仕事を続けること	地域で若者たちの在宅支援事業所が立ち上がりとても頼れる	在宅支援事業所の様々な活動を通して、相互に本人の生活をサポートしてほし い。成年後見制度も充実してほし い。
2	1		19	自分に合った職を見つけ親元から独立し て暮らすことを希望している。		環境が変わるたびにどうしたらいいか、 どこに相談したらいいか、何の道しるべ もない状況が不安。親や親戚の手を借り ることなく、成人後も暮らしが保障され るようなシステムを早く定着させてほし い。
3	1		19	資格を取って家でできる仕事につけば 目指すと言っているが、実現不可能であ ることを納得させることができな い	もっと知らせていく必要がある	成人期に向けての啓発活動 アスペルガー症候群への障害認定 就職に際しての援助・配慮 親無き後の財産管理
4	1		19	兄弟別々に独立させたい どんな仕事ができるのかわからない 結婚できるかどうかかわからない	1週間位前障害を自覚した。聴覚障害認 知を説明してようやく納得した。	手帳の取得 ジョブコーチ 対人関係でトラブルがあったとき相談で きるところ。 資産の管理について
5	1		20	親無き後が心配	本人の収入面が不十分	今の生活を支えてくれるたくさんの支援 専門性を持った子供を託せる施設の充実

No	性別		年齢	現在困っていること	生活上の問題	就労に関する問題
	男	女				
6	1		20	具体的にわからない	自閉症・アスペルガー症候群が変な目で見られないよう正しく一般の人たちに伝わってほしい	いつも話し相手になってくれる人がいる場所がほしい 成人用の施設がほしい
7	1		20	もっと自閉の特性が知られ、独りで出かけても対応してくれる場が増えると生活が楽になるのに		自閉症向けの判定がほしい 自閉症特有の福祉サービスがほしい
8	1		21	行き場が無いと、精神状態が一層悪くなるのではと不安である。 親自身の老後、死後を考えたと今はどうしたらよいかわからない。	手帳が必要な人にはもっと簡単に出してほしい	発達障害専門の精神科医師の育成、福祉関係者にもっと勉強してほしい 成人期の療育の場がほしい 職業センターやハローワークは事務的で働きかけづらい
9	1		20	小学生の頃のような人間関係があれば楽しいことだろう。 地域にもどり、グループホーム等で生活する。支援を受けながら町中で働く		独立した生活を送ってほしい 子供の障害に対して、担当者が明確にされ、生活就労、諸手続をサポートしてほしい
10	1		21	障害を受け入れてくれる老人ホームの設置		医療費の無料
11	1		23	いろんな面でのサポーターがいて、自立した生活をして欲しい		手帳が無くとも利用できる生活全般に渡ってのサポート
12	1		24			高機能・アスペルガー症候群も手帳の対象としてほしい

No	性別		年齢	現在困っていること	生活上の問題	就労に関する問題
	男	女				
						役所でも彼らの特性を生かした部門を作ってほしい 就業の規制が多すぎる 発達障害としての障害手帳を望む 金銭的な援助より、精神面でのサポートを望む 成人の場が非常に足りない 福祉施策が足りないものばかりである
13	1		24	障害を理解したうえでの就労とサポート体制 生活費を稼げる就労を望む		
14	1		26	現在の生活を安定させ、本人の能力にあった場所をみつけることで将来が見えるのでは	本人に密に関わってくれる障害に理解のある人を探すことが難しい	
15	1		26	障害について理解があり、ジョブコーチにもお願いし、仕事を長く続けさせたい	行政に認められない障害をもって生きていくことはとても難しいと思う 年金がもたらえるようにしてほしい	専門家のいる施設 障害を理解する管理者のいるグループホーム
16	1		27	グループホーム等にお世話になりたい		
17	1		28	自閉症専門施設の利用を考えている。	ジョブコーチはアルバイトにもつけてほしい。	高機能の人に合ったグループホームが望ましい。 専門的に見守ってくれる専門家が生涯にわたって必要。 親無き後の金銭管理等不安が多い。 成年後見制度をもっと利用しやすくしてほしい。

No	性別		年齢	現在困っていること	生活上の問題	就労に関する問題
	男	女				
18	1		28	親元から独立させ独り暮らしをさせた い。 親無き後はグループホームで生活させた い。	職場の人間関係で悩んでいるとき、相談 できる場所がほしい。 同年代の友達がほしい。	生涯基礎年金の支給を望む。 自閉症の手帳があれば 自閉症をもっと認めてもらい、能力を生 かせる仕事を増やしてもらいたい。
19		1	28	親亡き後、相談、サポートをしてくれる 人がいない 高機能自閉症対象のグループホームが望 ましい	もっと早く診断、ケア、サポートの体 制があれば	障害があっても安心して生きていける社 会を望む 各機関が連携して本人と家族をサポート する体制を作ってほしい。
20	1		27	本人が毎日通える場所があれば。 グループホームに入所できればと思う。	同じような障害の方と話し合いができ ば。	仕事につけない高機能自閉症者には何ら かの助成を望む。 高機能の通所更生施設を望む。
21	1		27	本人が安心して通えるところがほしい。 グループホームで生活できれば。 福祉法人が後見人になってくれれば。	手帳の申請の時にプライドを傷つけられ ることを言われて、2度と行きたくない と本人が思ってしまった。	幼児期から入れる自閉症学校が必要 自閉症手帳を作ってほしい
22	1		28	短期間預かってくれるホームがほしい。 理解してくれる人たちが増え、安心して 出かけられる場所が必要 社会から閉鎖されないこと	発作的に悩むので受け入れてくれる専門 家がほしい	成人対象の支援センター 特別の職業訓練 自閉症を国が障害と認定してほしい

No	性別		年齢	現在困っていること	生活上の問題	就労に関する問題
	男	女				
				本人の特技が生かせるようなジョブコーチをつけて何らかの働きができること 自閉症の年金がおりること		年金を強く希望
23	1		31	家庭生活の限界を感じる グループホームでの親から離れた生活を望む	グループホームのショートステイのような利用ができたら	自閉症が社会に理解され、専門の相談機関や指導員の養成を望む
24	1		30	社会に適応していく力に欠けているのでこれからどうしたらいいか、ほとほと困っている。		家には帰って来たくないので住居の問題が心配。グループホーム等を希望するが本人は規律にしばられることを心よく思わない。 本人を理解して助言してくれる人がそばにいれば
25	1		31			一人一人にアドバイスでききりめ細かいな体制は欠かせないと思う
26	1		33	手帳と年金を取得し、通勤寮かグループホームで生活させたい	手帳は必要になっただらと考えていたが、たいへんだった	本人や親の立場で考えてくれる公共の相談機関がほしい 親無きあと、安心して過ごせるようサポートしてほしい
27	1		34		本人の障害を理解して宿泊させてくれる宿を紹介してもらいたい	親無き後の生活が法律で守られることを望む
28		1	36	親亡き後の問題		医療費の援助を希望 サポートしてくれるグループを望む

No	性別		年 齢	現在困っていること	生活上の問題	就労に関する問題
	男	女				
29	1		35			グループホームに期待する
30	1		36	手帳所持者には全員に年金支給ができるようにしてほしい		
31	1		36	グループホームで生活し、生活費を就職して得られれば		本人の悩みや権利について相談できる人や機関を望む 精神面に生き甲斐を感じられるような制度や機関を望む
32	1		39	親亡き後の問題		
33		1	41			親無き後が一番気がかりである

高機能自閉症児・者及びアスペルガー症候群に関する追跡実態調査

2003年度 厚生科学研究障害保健福祉総合研究事業

調査対象者について該当箇所に○印をつけて下さい。

居住地	() 都・道・府・県	性別	男・女	年齢	() 歳	取得資格	(例 運転免許)
知能指数	IQ ()			障害基礎年金	取得している (取得時期:) ・取得していない		
療育手帳	ある (等級:) ・ない			最終学歴	中学卒・高校卒・大学卒または中途退学・専門学校卒 大検受験 (有・無)		
	申請した (許可有・無) 申請した時期 () 申請しなかった (理由:)						
家族	父・母・兄弟 () 人・姉妹 () 人・祖父・祖母・その他 ()						本人を含めて合計 () 人

①生活の現状についてお尋ねします。

どこに住んでいますか	1. 自宅 2. グループホーム 3. 福祉ホーム 4. 通所寮 5. 社員寮 6. 住み込み 7. アパート 8. 入所施設 (児童・成人) 9. 入院 () 科 10. その他 (具体的に記入下さい)
どこに通っていますか	1. 学校 専門学校 (分野) ・短期大学 () 科・大学 () 学部 () 科 その他の学校 () 2. 通所作業所 (小規模作業所・通所授産・通所更生) ・その他 () 通所回数 (週に 回) 3. 職業訓練センター 4. 企業実習 (業種) 5. 一般企業就労 (職種) 6. 就業 7. その他 (どこへも行っていない・在宅中など) 【その理由】

②障害を受容した経過についてお尋ねします。

お子さんの障害を認めた経過はどのようなものでしたか	
ご本人に伝えましたか	(伝えた・伝えない) → 伝えたとお答えの方、下記に記入ください。
どのように伝えましたか	

③障害について現在どのように捉えていますか。(この欄のみご本人の記入も可)

ご本人自身は自分の障害のことをどのように思われていますか	
------------------------------	--

ご家族(両親や兄弟姉妹)はご本人の障害についてどのように思われていますか	
--------------------------------------	--

④障害基礎年金をもらっていない方にお尋ねします。

生活費はどのようにしていますか	(親が負担している・その他:)
-----------------	------------------

⑤前回の調査で判明したいいくつかの課題もきめて今後の福祉対策を進めるにあたり次の4点についてお尋ねします。

a)現在困っていること	
b)生活上の問題	
c)就労に関する問題	(失職・離職・転職された場合はその理由もご記入ください)
d)将来について思っていること	
e)その他	

*スペースが足りない場合は裏面をご使用ください。

⑥どのような福祉施策を望みますか?ご自由にお書き下さい。(例 成人期の支えや親亡き後の問題など)

☆ご協力ありがとうございました。(このアンケートの締め切りは9月10日です。同封の返信用封筒でお送り願います。)

記入者 (親・その他) 住所 丁目 番 号 氏名

◎今後何人かの方々に聞き取り調査をさせて頂きたいと考えております。聞き取り調査へのご協力をお願い出来ますか? (はい・いいえ)

IV. 研究成果の刊行に関する 一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
辻井 正次	イルカ・セラピー入門：自閉症児のためのイルカ介在療法	辻井 正次 中村 和彦	イルカ・セラピー入門：自閉症児のためのイルカ介在療法	ブレーン出版	東京	2003年	5-9 24-40 91-106 137-140 199-225
辻井 正次	「変光星」復刊に寄せて	森口奈緒美	変光星	花風社	東京	2004年	319-324
山崎 晃資 小石 誠二	自閉症、注意欠陥／多動性障害、チックの薬物療法	樋口 輝彦 小山 司 神庭 重信	臨床精神薬理ハンドブック	医学書院	東京	2003年	278-291
山崎 晃資	標準化された評価尺度の利用	上林 靖子 齋藤万比古 北 道子	注意欠陥／多動性障害—AD/HD—の診断・治療ガイドライン	じほう	東京	2003年	46-54
山崎 晃資	統合失調症、強迫性障害、外傷後ストレス障害、摂食障害、睡眠障害、自閉症、注意欠陥／多動性障害、不登校、習癖異常、遺尿症	西間 馨三 横田 雅史	病弱教育 Q&A Part V	ジアース教育新社	東京	2003年	124-155 162-194
白瀧 貞昭	教室の中の子どもたち	神戸小学校 長会	続変容する子どもたち	みるめ書房	神戸	2004年	29-46
杉山登志郎	特別支援教育と小児精神医学 高機能広汎性発達障害など	杉山登志郎 原 仁	特別支援教育のための精神・神経医学	学研	東京	2003年	6-39 56-92 140-154 164-174 200-203
杉山登志郎	学齢期青年期の自閉症と性行動 学齢期青年期の問題行動への対応	石井 哲夫	自閉症ガイドブックⅡ	日本自閉症協会	東京	2003年	88-90
杉山登志郎	解説：森口奈緒美と「変光星」	森口奈緒美	変光星	花風社	東京	2004年	329-333
栗田 広 立森 久照 長田 洋和	高機能広汎性発達障害とAD/HD	上林 靖子 齋藤万比古 北 道子	注意欠陥／多動性障害—AD/HD—の診断・治療ガイドライン	じほう	東京	2003年	87-92
Thomsen, P. H. Kurita, H.	International perspective	Scahill, L. Chamey, D. S. Leckman, J. F.	Pediatric Psychopharmacology: Principles and Practice	Oxford University Press	Oxford	2003年	746-755
清水 康夫	心理社会的治療の基本的な考え方	上林 靖子 齋藤万比古 北 道子	注意欠陥／多動性障害の診断・治療ガイドライン	じほう	東京	2003年	187-188
清水 康夫 井上とも子	学校における指導—情緒障害通級指導教室を中心に—	上林 靖子 齋藤万比古 北 道子	注意欠陥／多動性障害—AD/HD—の診断・治療ガイドライン	じほう	東京	2003年	208-212
清水 康夫 本田 英夫	医療機関と学校とのネットワーク	上林 靖子 齋藤万比古 北 道子	注意欠陥／多動性障害—AD/HD—の診断・治療ガイドライン	じほう	東京	2003年	213-215
太田 昌孝	発達障害への教育的訓練	松下 正明	新世紀の精神科的治療	中山書店	東京	2003年	287-302
太田 昌孝	どうサポートするか	日本トゥレット(チック)協会	チックする子にはわけがある	大月書店	東京	2003年	68-84
太田 昌孝	児童虐待、子どものストレス	江川 政成 高橋 勝 葉養 正明 望月 重信	教育キーワード137 (第10版)	時事通信社	東京	2003年	232-233 270-271

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
石井 哲夫	高機能自閉症への社会的支援—自閉症・発達障害支援センターの発足と課題—	自閉症スペクトラム研究	2	31-35	2003年
石井 哲夫	高機能自閉症から学ぶ	エスペランサ	3	5-7	2003年
辻井 正次	軽度発達障害の就労支援の実際と課題	小児の精神と神経	43(3・4合併号)	205-212	2003年
内田 裕之 辻井 正次	高機能広汎性発達障害のロールシャッハ反応(1): I 図版の特性との関連	中京大学社会学紀要	17(1)	95-111	2003年
内田 裕之 辻井 正次	高機能広汎性発達障害のロールシャッハ反応(2)—無彩色図版の特性との関連	中京大学社会学紀要	18(2)	31-53	2004年
辻井 正次	高機能広汎性発達障害の心理・社会的サポート	乳幼児医学・心理学研究	12(1)	27-35	2003年
辻井 正次	高機能自閉症児の特別支援教育の現状と課題	発達障害研究	24	340-347	2003年
辻井 正次	自閉症児を育てる、自閉症児とともに育つ: NPOの立場から	そだちの科学	創刊1号	87-91	2003年
山崎 晃資 白瀧 貞昭 松本 秀夫 橋本 大彦	自閉症はどこまでわかったか	最新精神医学	8(3)	231-243	2003年
山崎 晃資	精神遅滞と精神医学的合併症	別冊・日本臨床・領域別症候群シリーズ・精神医学症候群Ⅱ	39号	476-479	2003年
山崎 晃資	自閉症	別冊・日本臨床・領域別症候群シリーズ・精神医学症候群Ⅱ	39号	517-520	2003年
山崎 晃資	自閉症児の内的世界にどこまで近づけるか	そだちの科学	創刊1号	120-122	2003年
山崎 晃資	学校保健にかかわる専門相談医のありかた—児童精神科医の立場から—	日本医師会雑誌	130(4)	541-546	2003年
山崎 晃資	解説: 高木隆郎著・学校恐怖症の典型像(I)	こころの臨床	22巻増刊号[3]	52-54	2003年
山崎 晃資	注意欠陥多動性障害(AD/HD)の薬物療法	精神科	3(3)	252-258	2003年
山崎 晃資	医師として自閉症教育に期待すること	発達の遅れと教育	558号	7-9	2003年
Ando, H. Yamamoto, K. Ichimura, A. Sato, S. Teraoka, N. Ozono, H. Kushino, N. Maruyama, M. Matsumoto, H. Yamazaki, K.	Early crisis intervention to patients with acute stress disorder in general hospital	Tokai J. Exp. Clin. Med.	28(1)	27-33	2003年
白瀧 貞昭	アスペルガー症候群: 思春期以降例の診断に必要な幼児期情報	精神科治療学	印刷中		
白瀧 貞昭	自閉症の正しい理解: 乳幼児期の発達	こころの臨床アラカルテ	印刷中		

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
杉山登志郎 海野千畝子 浅井 朋子	高機能広汎性発達障害に見られる解離性障害の臨床的検討	小児の精神と神経	43(2)	113-120	2003年
杉山登志郎	自閉症文化に沿った自閉症スペクトラムへの教育	発達の遅れと教育	558号	10-12	2003年
杉山登志郎	高機能広汎性発達障害に見られる行為障害と犯罪	そだちの科学	1号	42-46	2003年
杉山登志郎	動き出した特別支援教育—子ども達の教育に求められているもの	特別支援教育	11号	4-9	2003年
小山 智典 立森 久照 長田 洋和 戸張 美佳 石田 博美 栗田 広	WISC-Ⅲによる高機能広汎性発達障害と注意欠陥/多動性障害の認知プロフィールの比較	精神医学	45	809-815	2003年
小山 智典 立森 久照 長田 洋和 戸張 美佳 志水 かおる 武田 俊信 栗田 広	広汎性発達障害児の発達評価における発達指数 (DQ) の臨床的意義	臨床精神医学	32	1081-1087	2003年
栗田 広 長田 洋和 小山 智典 小宮 有紀 金井 智恵子 志水 かおる	自閉症スペクトル指数日本版 (AQ-J) の信頼性と妥当性	臨床精神医学	32	1235-1240	2003年
石鳥 路子 養輪 巖 染谷 利一 栗田 広昌 加藤 進昌	アスペルガー症候群と診断された一卵性双生児一致例での詳細な比較検討	臨床精神医学	32	1365-1375	2003年
加藤 星花 井筒 節 金井 智恵子 小山 智典 小宮 有紀 栗田 広	描画版ユースセルフレポート問題行動尺度 (P-YSR-P) の信頼性と妥当性	臨床精神医学	32	1563-1569	2003年
志水 かおる 長田 洋和 中野 知子 渡辺 友香 栗田 広	広汎性発達障害 (PDD) と注意欠陥/多動性障害 (AD/HD) における人物画描画能力の比較	精神医学	45	1305-1569	2003年
井筒 節 加藤 星花 長田 洋和 栗田 広	広汎性発達障害 (PDD) 児と PDD非合併精神遅滞児の継続的発達変化の比較	臨床精神医学	33	65-69	2004年
栗田 広 長田 洋和 小山 智典 金井 智恵子 小宮 有紀 志水 かおる	自閉症スペクトル指数日本版 (AQ-J) のアスペルガー障害に対するカットオフ	臨床精神医学	印刷中		
Kurita, H. Osada, H. Shimizu, K. Tachimori, H.	Bipolar disorders in mentally retarded persons with pervasive developmental disorders	Journal of Developmental and Physical Disabilities	in press		

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kurita, H. Osada, H. Miyake, Y.	External validity of childhood disintegrative disorder in comparison with autistic disorder	Journal of Autism and Developmental Disorders	34	353-362	2004年
Kanai, C. Koyama, T. Kato, S. Miyamoto, Y. Osada, H. Kurita, H.	A comparison of high-functioning atypical autism and childhood autism by Childhood Autism Rating Scale-Tokyo Version	Psychiatry and Clinical Neuroscience	58	217-221	2004年
清水 康夫	自閉症スペクトル障害の早期介入	精神科治療学	18	987-993	2004年
清水 康夫	自閉症の早期介入の動向	心を開く	31	71-75	2003年
太田 昌孝	自閉症圏障害における実行機能	自閉症と発達障害の進歩	7	3-25	2003年
Kamei, M. Miyatake, K. Hattori, R. Tanaka, T. Oikawa, M. Some, S. Hirayama, Y. Ohta, M.	Cognitive developmental group therapy for persons with severe motor and Intellectual Disabilities (SMID) by Ohta Staging	16th Asian Conference on Mental Retardation		287-296	2003年
Mutou, N. Suzuki, H. Kano, Y. Ohta, M.	Ohta Staging : Evaluation system of cognitive development for persons with autism spectrum disorder	16th Asian Conference on Mental Retardation		353-361	2003年
太田 昌孝	認知発達プログラムから	そだちの科学	創刊1号	59-65	2003年
太田 昌孝	ICFと発達障害—活動と参加に焦点を当てて—	精神医学	45(11)	1175-1184	2003年

厚生労働科学研究費補助金
こころの健康科学研究事業

平成16年4月30日発行

**高機能広汎性発達障害の社会的不適応と
その対応に関する研究**

研究代表者 石井 哲夫

連絡先 社団法人 日本自閉症協会 (TEL03-3232-6478)

印刷 株式会社 美巧社
